

思いや願いの実現に向けて対象とのかかわりを深め、気づきの質を高める生活科授業

小千谷市立小千谷小学校
清塚 大暁（28年度）

子どもの思いや願いの実現に向けて、「人、もの、こと」など様々な対象とかわらせ、気づきの質を高めていく生活科授業を目指す。

私の授業を振り返ってみると、子どもの「思いや願い」から「問い」を生み、学習課題を設定することを意識して行ってきたが、学習課題の解決に向けて子どもの考えを広げたり、深めたりできていたかは自信がない。また、個の学びをグループや全体で交流する活動を組織していなかったため、考えや気づきを共有したり、共通点や相違点に気付かせたりすることができず、気づきの質が高まらないで終わっていたことがあげられる。

そこで本実践では、野菜の観察や世話を行う体験活動をしながら、野菜の生長の様子や変化を捉えさせる。伝え合い交流する活動の工夫として、グループと全体での話し合いを組織する。野菜の観察（個人）→野菜会議（グループ交流）→報告会（全体交流）→栽培活動という生活科の授業サイクルを繰り返し、体験活動と表現活動を往還させる。

伝え合い交流する活動では、「おいしい野菜を育てる」ために互いの思いや行為について気づきを伝え合い、共有化する。これらの活動を通して、個別の気づきを関連付けながら対象とのかかわりを深め、気づきの質を高めていく子どもの姿を期待した。